



➔ 6年生 | 「日本の文字に関心をもとう」

文字っておもしろい！

1. 仮名の由来を知ろう

本単元は、仮名の由来を知り、文字に関心をもつというものである。授業参観で行った。

最初は万葉仮名。これは日本語を表すために、漢字の音を借りて使われた文字である。まずはウォーミングアップ。「波奈」(はな)、「比登」(ひと)などの読み方をクイズ形式で提示した。さらにスペシャル問題として次のものを出题した。

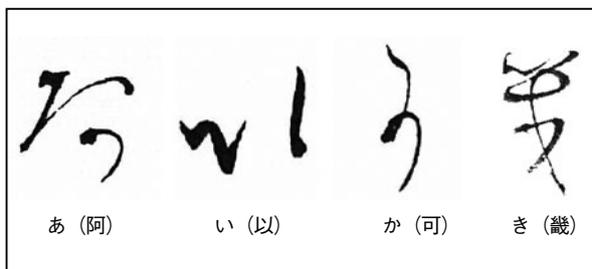
「夜根矢真多加乃部」(よねやまたかのぶ)

私の名前である。意外にも(?)これは正解率が高かった。

そして万葉仮名の五十音表を提示した。それによると、「し」と読める万葉仮名は、「之」「子」「四」など、なんと30文字近くもあることがわかる。仮名は万葉仮名を元にして作られている。仮名は、漢字の一部を取り出したり、崩したりして出来上がったことを示した。

2. 保護者も知らない「変体仮名」

これだけでも日本の文字への関心は高まるが、授業参観では保護者の方もあっと言わせたい。そこで今ではほとんど使われていない平仮名を見せた。



▲「変体仮名」の例 (出典: 竹井悦堂 著「変体がな解読字典」雄山閣)

クイズ形式でどんどん予想させたが、正解するはずもない。保護者の方にも聞いてみたが、もちろんわからない。実際に使われている例として、今でも

街中などで見かけることがある、蕎麦屋の看板を提示した。



▲「生楚者」で「きそば」と読みます。

3. これは本当に字？ 誰も読めない「合略仮名」

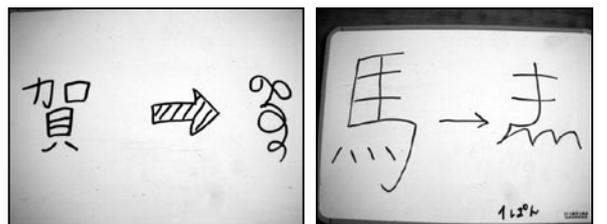
さらに「合略仮名」という仮名も紹介した。仮名1文字で、2音以上の音をもつ字である。絶対に読めない。



▲「合略仮名」の例 (出典: 沖森卓也ほか 著「図解日本の文字」三省堂)

子どもから、「これ字？ 赤ちゃんのいたずら書きじゃない？」という声も上がり大爆笑。

最後に変体仮名を子どもたちに作らせて授業を終えた。保護者の方も一緒に考え、驚きと笑いの絶えない、楽しい授業参観だった。



▲子どもたちの作った「変体仮名」